

2018 年度 入学 試験 問題

日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きを使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1～問12はマーク解答用紙にマークしなさい。問13は記述解答用紙に答えなさい。(34点)

A 平安期を迎えると、任国に赴任する受領国司^①は徴税の責任と権限を集中して持つようになった。しかし律令体制は行き詰まりをみせ、平安中期には開発領主^②と呼ばれる人びとが地方で力を持つようになった。国司からの圧迫を避けるため、土地は開発領主から有力な貴族や寺社へ寄進され、私領化は進んだ。こうしてできた荘園を寄進地系荘園^③という。このような本格的な荘園の発展は、武士団^④が形成される契機となった。その武士団の代表的な棟梁が桓武平氏と清和源氏である。

B 10世紀には、東国と西国で大きな反乱がおきた。いわゆる承平・天慶の乱^⑤である。また11世紀初めには九州北部を刀伊が来襲したが、九州の武士たちが撃退した。その後も東国や奥羽で争乱が相次いだ^⑥。中央においては、朝廷や貴族たちは武士を侍として奉仕させ^⑦宮中警備や貴族の身辺警護に用いた。

C 荘園の増加は公領を圧迫し、延久の荘園整理令^⑧が出された。その後、土地領有制度は荘園公領制^⑨へと変化していった。白河天皇は上皇となり、治天の君として院政^⑩をしいた。奥羽においては奥州藤原氏^⑪が支配を広げたが、中央においては伊勢平氏が勢力を拡大させた。平清盛が政治基盤を確立したのは、保元の乱と平治の乱^⑫によってである。平氏政権^⑬は源平の争乱まで続いた。

問1 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 戸籍に記載された者に課税する原則は崩れ、土地を基礎に受領が負名から徴税する体制ができていった。
- b 『尾張国郡司百姓等解』によって暴政が訴えられ、受領の藤原元命は解任された。
- c 信濃守藤原陳忠が「受領は倒れるところに土をもつかめ」と言ったという『今昔物語集』の話は、受領の強欲さを示している。

問2 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 開発領主は成功や重任で任じられることが多くなった。
- b 開発領主から寄進を受けた荘園領主は本家と呼ばれ、その荘園がさらに上級貴族や有力皇族に重ねて寄進された時、上級の領主は領家と呼ばれた。
- c 開発領主は所領を守り農民を支配するため、武装化をすすめた。

問3 下線部③に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 紀伊国の柿田荘は12世紀末に神護寺へ寄進された荘園である。
- b 『東寺百合文書』によると、東寺は肥後国鹿子木荘における開発領主の権利を継承していると主張している。
- c 国司が官物や臨時雑役の負担量の正否を調査するために荘園へ派遣した役人を検非違使という。

問4 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 平安期、主人に従う一族を家子、主人と一族以外の者を郎党・下人・所従といった。
- b 社会秩序を乱す武士集団が平安期に生まれ、これを悪党といった。
- c 『真如堂縁起』には雑兵である足軽が平安期に活躍する姿が描かれている。

問5 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 平将門は下総を根拠地として新皇と自称したが、平貞盛や藤原秀郷に討たれた。
- b 藤原純友は筑前国司の任期を終えた直後に海賊を率いて大宰府を襲撃したが、小野好古や源経基に討たれた。
- c 承平・天慶の乱を通じて朝廷の軍事力の低下が明らかになった。

問6 下線部⑥に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 平時忠の乱を源頼政が鎮圧したことは、源氏の東国進出のきっかけとなった。
- b 前九年合戦では清原氏の内紛を源頼義が制圧し、後三年合戦では安倍氏を源義家が滅ぼした。
- c 前九年合戦と後三年合戦を通じて、源氏は東国武士団との主従関係を強めた。

問7 下線部⑦に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 9世紀末に設けられた宮中警備の武士を北面の武士という。
- b 平安期における貴族警護の武士を西面の武士という。
- c 源満仲や源頼光は摂関家に近づいてその保護を受けた。

問8 下線部⑧に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 荘園整理令が出されたのは延久の荘園整理令の時が最初であった。
- b 記録荘園券契所による審査によって基準に合わない荘園を停止しようとした。
- c 延久の荘園整理令は摂関家の荘園までは整理が及ばなかった。

問9 下線部⑨に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 11世紀初頭には各国ともほとんどが荘園化された。
- b 国司は郡司・郷司・保司に徴税を請け負わせた。
- c 名主は年貢・公事・夫役などを領主におさめ、農民の中心となった。

問10 下線部⑩に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 『中右記』には「幼主三代の政をとり」と記されており、これは白河上皇が鳥羽、崇徳、近衛の三代の天皇の時期に治世をしいたことを意味している。
- b 『源平盛衰記』によると、白河上皇は「賀茂川の水、双六の賽、山法師、これぞ朕が心に随はぬ者」と嘆いたと伝えられる。
- c 知行国の制度や院分国の制度が広まり、院政を支える経済的基盤となった。

問11 下線部⑪に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 奥州藤原氏は、北方との交易や金・馬などの産物による富をもって院や摂関家と通交した。
- b 奥州藤原氏は、中尊寺の浄土式庭園や毛越寺の金色堂を建立した。
- c 奥州藤原氏は、源義経をかくまい、源頼朝によって滅ぼされた。

問12 下線部⑫に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 保元の乱では、平清盛や源義朝が動員され、後白河天皇側の勝利に終わった。
- b 慈円は『愚管抄』の中で保元の乱以後は「武者の世」となっていると記している。
- c 平治の乱では、崇徳上皇は讃岐に流され、藤原頼長や源為義は滅ぼされた。

問13 下線部⑬に関して、平氏政権における経済的基盤（2つ）についてそれぞれの解答欄に各20字～30字（句読点を含む）で説明しなさい。

Ⅱ 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1、問4は記述解答用紙に答えなさい。問2、問3、問5～問8はマーク解答用紙にマークしなさい。(26点)

村は、豊臣政権の兵農分離政策と検地によってはじめて国家規模で把握されたが、その後、分村や新田開発により新たな村が誕生するなどして増加し、17世紀末には全国の村数は6万3000余りにのぼった。村の大半は農業を主とする農村であり、その領域は検地によって石高がつけられ本年貢が課される田畑の耕地・屋敷地と、農業と生活に必要な肥料・燃料・飼料などの供給源である [1] を含む林野等で構成された。農村での耕作は、一組の夫婦を中心とする家族労働が基本となり、1町歩前後の田畑に細やかな労働を集中的に投下し、面積当たりの収穫量を高くするという集約的な小経営を特徴としていた。高い生産力を持つ小経営とこれを支える村は、農業生産から米年貢を取り立てることを基礎とする幕藩体制の重要な基盤をなした。

近世において、耕地面積は飛躍的に増大した。戦国時代から江戸時代初期にかけて発達した築城技術や鉱山開発技術が利用されて、大規模な治水・灌漑工事が各地で始められた。芦ノ湖を水源とする箱根用水や利根川から分水する [2] は、用水の体系の整備としてよく知られる。そして、幕府や諸藩は、大河川の下流や海岸部で新田開発を積極的におこない、農民も小規模ながら営々と新田開発につとめたほか、有力な都市商人の資力を利用した開発(町人請負新田)もおこなわれた。

農業技術では、小経営にふさわしい農具の改良が進み、村々に広く普及した。深耕用には備中鍬が、揚水機は小型の踏車が考案され、また脱穀は扱箸から千歯扱にかわったことなどである。肥料についても、刈敷等の自給肥料のほか、干鰯・油粕・メ粕などの [3] の利用が進んだ。また、こうした農業技術の普及に大きな役割を果たしたものに農書があり、なかでも [4] の『農業全書』は広く流布した。

17世紀末に全国市場が確立し、三都や城下町などの都市が発達した。そのような都市の発展や生活の向上などを背景とする需要の高まりに応じて、商品作物の栽培や取引もさかんになった。売ることを目的とした農業(商業的農業)の展開により、村々はしだいに遠隔地との商品流通に巻き込まれるようになった。また、近世初期においては、手工業は主に都市でおこなわれたが、その後しだいに農村でもおこなわれるようになった。とくに織物業の発展はめざましかった。

商品経済の発展は、社会に大きな変化をもたらした。商業的農業等の展開による貨幣経済の浸透は、自給自足的であった農村の生活^①をかえていき、肥料などの購入費用、信仰・娯楽などの出費、村入用など、貨幣なくしては暮らせない状況が生まれていた。農民は、農業経営に失敗して土地を失い、賃稼ぎや小作をおこなうようになった者が生じる一方、手持ちの資金を困窮した百姓に利貸して村の内外で質にとった田畑を集めて地主に成長するなどして、有力百姓が生じた。そうした有力百姓を と呼ぶ。

問1 文中の空欄 ～ に入るもっとも適切な語・氏名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 村には、農村部にあつて町場化している集落である在郷町も含まれる。
- b 村には百姓以外に、僧侶や神職などの宗教者、さらに職人などが含まれる場合も多い。
- c 年貢などの諸負担は村ごとにかかり、村はそれを完納する責任を負うという村請は、江戸時代からはじまった。

問3 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 18世紀初めには、全国の田畑面積は、江戸時代初めに比べ3倍近くに拡大した。
- b 淀川下流の川口新田は、町人請負新田の例である。
- c 椿海の新田開発は、江戸町人が請負人になるとともに、幕府も資金援助をおこなって進められた。

問4 下線部③に関して、本文にあげた農具のほか、初選別用に考案された農具には何があるか。2つ答えなさい。

問5 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 農書『清良記』は、『農業全書』以前にあらわされた。
- b 稲生若水らの『庶物類纂』は、地域の実情を反映した農書である。
- c 二宮尊徳があらわした『農具便利論』は、農具を用いた農作業の様子も描いている。

問6 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 出羽村山の漆、備後の紅花、阿波の藍玉など特産品が、大名などの奨励のもとで、全国各地に生まれた。
- b 江戸中期には、中国産生糸にかわって国内産生糸が需要をまかなうようになった。
- c 農村を拠点に活動する商人の出現がうながされ、そのような商人のことを在郷（在方）商人という。

問7 下線部⑥に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 京都西陣で用いられていた地機（ぢぢ）の技術が地方にも伝えられ、丹後、上野桐生、下野足利などでも、高級な絹織物が生産されるようになった。
- b 紙漉による和紙の生産は、楮をおもな原料とし、流漉の技術とともに、全国の村々で広まったが、越前の奉書紙や美濃の紙が有名である。
- c 手工業生産のあり方では、問屋商人が原料や資金を農家に貸与して、加工賃を払って製品を受け取るマニファクチュアも出現した。

問 8 下線部⑦に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 国学者菅江真澄は、近畿地方をまわり農民の生活を『菅江真澄遊覧記』としてまとめた。
- b 盆踊りや虫送りの行事は、農耕儀礼と密接にかかわっていた。
- c 村々の若者が中心となって各地で取り組み、娯楽の場となったものに、村芝居がある。

Ⅲ 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1、問2は記述解答用紙に答えなさい。問3～問10はマーク解答用紙にマークしなさい。(40点)

A 日本の貿易は、第一次世界大戦中は、いわゆる大戦景気により大幅な輸出超過の状態にあったが、1919年後半になると、^①貿易収支は輸入超過の傾向となり、とりわけ、重化学工業は輸入品が増加して、国内の生産を圧迫した。翌年には、株式市場が暴落し戦後恐慌のきっかけとなった。たとえば、紡績・製糸業の部門では、それぞれ、・の売れ行きが不振となり相場が下落したため、操業を短縮するなどの不況に見舞われた。その後、1923年9月1日に関東大震災が^②おこり、京浜地区では、工場や事業所のほとんどが倒壊または焼失し、大きな社会的混乱が生じ、これにより日本経済は大きな打撃を受けた。銀行手持ちの手形が大量に決済不能となったため、政府は、決済不能となった震災手形に対して、震災手形割引損失補償令により日本銀行から特別融資をおこなわせた。しかし、1926年末時点で、なお2億円強が未決済となっていた。そこで憲政会の内閣は、震災手形の処理を目的として法案を議会に提出したが、その際の、蔵相の失言から、いくつかの銀行が多く不良債権をかかえ経営状態が悪いことが暴露された。その結果、1927年3月に、銀行への取付け騒ぎがおこり、これが金融恐慌の発端となって全国に広がった。内閣は、に対する巨額の不良債権をかかえた台湾銀行の救済をはかるためを出そうとしたが、に否決されたため、総辞職した。つぎに成立した立憲政友会の内閣は、蔵相の提案により、3週間のを発し、日本銀行から20億円近くの非常貸出しをおこなって恐慌を鎮めた。事態が沈静化すると、いったん引き出された預金は大銀行に集中し、五大銀行の金融支配が強まった。^③

B 1929年7月に成立した浜口雄幸内閣は、大蔵大臣に前日本銀行総裁の [9] を起用し、翌1930年1月に、懸案となっていた金解禁をおこなって金本位制に復帰する政策を実施した。ところが、1929年10月、ニューヨーク市場での株価の暴落をきっかけとして世界恐慌が勃発し、日本経済もこれによる打撃を受けたため、これと、金解禁の緊縮政策とが重なって、日本の恐慌は異常な激しさを呈したといわれる。この恐慌により、農村や製造工業の分野では大きな打撃を受けた。政府はこれらの状況に対して対策を立てた。

C 1920年代の慢性的な不況のなかで社会主義運動が高まりをみせた。1922年、[10] が秘密裏に結成され、その後、党員の検挙などにより1924年に解党を宣言したが、1926年に再建された。普通選挙法成立後、社会主義勢力は、議会を通じての社会改造をめざすようになった。1926年に、合法的な無産政党が成立し、1928年に実施された国政選挙では、無産政党から8人が当選した。このような無産政党の進出に危機感をいだいた [6] 内閣は、治安維持法を改正するとともに、公然と活動をはじめた [10] の一斉検挙に乗り出した。

問1 文中の空欄 [1] ~ [10] に入るもっとも適切な語・氏名を漢字で答えなさい。

問2 文中の空欄 [あ] ・ [い] に入るもっとも適切な品目2つを漢字で答えなさい。

問3 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 軍需品の主な輸出国は、イギリス、フランス、ロシアなどの連合国であった。
- b 世界的な船舶不足による、海運業・造船業の空前の好況のため、日本はイギリスにつぐ世界第2位の海運国となった。
- c 工業の躍進によって工場労働者数は第一次世界大戦前と比較して1.5倍に増えたが、それでも工業人口は農業人口の半数以下にすぎなかった。

問4 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 地震の規模は、マグニチュード7.9で、死者・行方不明者は約5万人であった。
- b 当時、内相であった後藤新平が中心となって、震災からの復興に力を注いだ。
- c 無政府主義者の堺利彦と伊藤野枝らが、憲兵大尉甘粕正彦に殺害された。

問5 下線部③に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 五大銀行とは、三井、三菱、住友、安田、横浜正金の各銀行を指す。
- b 財閥はこの時期に、主として金融・流通面から産業支配をすすめた。
- c この時期に、三菱は立憲政友会と、三井は憲政会（立憲民政党）との結びつきを深めていった。

問6 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 日本は、1897年に貨幣法を制定し、日露戦争で得た賠償金の一部を準備金として、金本位制を採用した。
- b 第一次世界大戦の勃発によりヨーロッパの交戦国が相次いで金本位制から離脱したことから、日本も1917年に金輸出を禁止し、金本位制から離脱した。
- c 1931年に成立した犬養毅内閣は、金輸出を再禁止するとともに円の金兌換を停止し、これ以降、金本位制を離れて管理通貨制度に移行した。

問7 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a アメリカへの生糸輸出は激減し、その影響で繭価は大きく下落した。
- b 農村では、1930年の豊作で米価がいったん上昇したものの、翌1931年の東北地方・北海道の大凶作により再び暴落した。
- c 企業の倒産により失業者は増大し、激化した労働争議の件数は、1931年が第二次世界大戦前におけるピークとなった。

問8 下線部⑥に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 政府は工場法を制定、施行し、女子の深夜業を禁止した。
- b 政府は重要産業統制法を制定し、政府の指定する産業での不況カルテルの結成を認めた。
- c 政府は輸出入品等臨時措置法を制定し、直接的な経済統制に踏みきった。

問9 下線部⑦に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 合法的な無産政党として労働農民党が組織された。
- b 実施された選挙は衆議院議員総選挙であった。
- c 当選者の中には山本宣治がいた。

問10 下線部⑧に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 治安維持法の制定当初の目的の一つは、労働者階級の政治的影響力の増大に備えることにあった。
- b 治安維持法の1928年改正により、「国体」の変革または「私有財産制度」を否認することを目的として結社を組織した者に対し、死刑または無期懲役・禁錮を科すことを可能とした。
- c 治安維持法は、GHQの覚書（人権指令）により、東久邇宮内閣によって廃止された。

